



大阪都構想は東西ドイツの統合みたいなものである

関西はまるで EU、東京＝アメリカと闘う！

2014年11月21日(金) 上山 信一

今回も大阪の話なのだが、私はグローバル人材(笑)なので、海外の話から始めたいと思う。

欧州統合のアイデアは第一次世界大戦の後に生まれたが、実現に向けて動き出したのは第二次世界大戦の後である。英国とドイツは2度の大战でナショナリズムをむき出しに、なりふりかまわずぶつかり合った。その結果、欧州では経済も人の心も何もかもが疲弊してしまった。そのことへの反省が、戦後の欧州は1つになろうという動きにつながった。

例えば、さんざんナショナリズムを煽ってきたチャーチルは改心して1946年にUnited States of Europe、すなわちヨーロッパ合衆国の設立を呼びかけた。これは明らかにアメリカを意識した呼称で、欧州は当時から米国を仮想ライバルとしていたようだ。

それから約50年後、欧州連合(EU)が誕生した。その少し前の89年にベルリンの壁が崩れ、翌年、東西ドイツが統一されている・・・なぜ大阪の話の前にこんなことを書くのかというと、これは伏線だからである。

関西EU説

さて、日本にも統一前の欧州、そしてかつてのドイツのような分裂国家、もとい、府県がある。言うまでもなく、関西、そして大阪のことだ

関西、とりわけ大阪が疲弊していることはこれまでの連載で散々述べてきた。その疲弊具合はあたかも統一前のドイツのようだ。なかでも特に疲弊している大阪市は東ドイツ、そして周りのまだ豊かな衛星都市群、つまり大阪府は西ドイツに相当する。

大阪にある“ベルリンの壁”は目には見えない。しかし、市営地下鉄の御堂筋線の名前が無意味に北大阪急行に変わる江坂駅(大阪市と隣接する吹田市の“国境”がある)あたりに、壊さなければならない壁が確実に存在する。

このように、大阪は、統一前の分断国家、ドイツそっくりなのである。

となると京都はフランスだ。文化あふれる京都の街とパリの街の類似は誰の眼にも明らかだ。鴨川はセーヌ川のような。京都人は隣国(大阪)とひとまとめに“関西”と呼ばれるといたくプライドが傷つけられるらしいが、そのへんもフランス人とそっくりだ。自国語(京言葉)以外を話す人を軽蔑した眼差しで見えたり、文化文化と言う割に、お金が大好きなのもフランスに似ている(失礼)。

なお、私は東ドイツ(大阪市内)に生まれたが、5才で西ドイツ(豊中市)に移住し、大学はフランス(京都)に行った。その後はアメリカ(東京 & ホンモノの USA)で暮らしている。さすがグローバル人材だけあって、なかなかの経歴である(大笑)。ちなみに、大阪人の気質は勤勉なドイツ人よりもラテン気質に近いが、関西経済の中心はどうみたって大阪である。だから大阪はドイツなのだ。

滋賀はいわば、ベルギーだ。もろにフランス文化圏なのに頑張って違っているようなふりをしている。フランスからも同様に振る舞われている。ベルギーも滋賀も小国だが妙にビジネスがうまい(さすが近江商人の国である)。

バチカンが伊勢神宮だ！

琵琶湖は、さながら北海だ。その向こうに福井があるが、あれはスカンジナビア半島である。福井は県民満足度が日本一だ。3世代同居が多く、女性の社会参画もさかんだ。

奈良はスイスだ。海がない。十津川武士は古来、都の紛争から距離を置き、中立を保ってきた。しかし大阪や京都に吸収されそうになった歴史もあり(明治初期には堺に吸収され堺県の一部だった)、政治についてはいつも慎重だ。大仏の如き穏やかな表情をしていて、何を考

えているのかいまひとつよくわからない。天平の頃から国際的ではあるがなんとなく影が薄い。

三重はイタリアだ。国土は南北に細長く、長靴の形をしている。イタリアにはバチカンがあるが、三重にも同様に伊勢神宮がある。こうした符合、これはもう神の采配というしかない。

和歌山はスペインだ。紀伊半島はイベリア半島に形がそっくりだ。それに日射しが強く、柑橘類と魚貝類が旨い。

兵庫、神戸はイギリスだ。昔から貿易で外に開かれている。ここもプライドが高い。何かと騒々しく下品な大阪(ドイツ)や古くさい京都(フランス)とは別格だと内心自負している。だから「京阪神」というまとめ方(そもそも順番がよくない)をされるのを心の底から嫌っている。フォーリガンが集う甲子園球場のことはドイツに押しつけないというのが見え見えだ。そして丹波あたりのことはアイルランドを見るような目で見ています。

大阪府と大阪市は分断国家

関西は EU



何が言いたいのかというと、関西はヨーロッパのごとく多種多様で文化豊かな土地なのである。しかし、その中であって大阪だけが統一前のドイツと同じく分断国家のまま放置されてい

る(悔しい)。もともと一緒だったのに、アメリカ(東京)のせいで西ドイツと東ドイツに分けられたままだ(ちなみに大阪で起こる不幸は全て 400 年前に豊臣家をダメした徳川、いや東京が悪い)。おまけに比較的豊かな西ドイツを後目に、東ドイツは瀕死の状態に陥っている。

長い与太話はさておく。ドイツは統一されるべくして統一された。統一後は極めて調子がよく、欧州全体はもとより世界の経済をリードする存在になっている。同様の意味で日本全体(全世界)のためにも、わが大阪も統一されるべきである。これこそが大阪都構想の眼目である(ちなみにここで東京を強く意識して「都」と言ってしまうのは冒頭でふれたチャーチルへのリスペクトであり、別に東京なんかの真似をしたいわけではない)。

東京＝アメリカ

東京はアメリカだ。どうってことはない、単に地方出身者が数多く集まっているだけのエリアである。ただその数がやたらに多いものだから、GDP(国内総生産)や人口など数字で測れるものだけが大きく見える。それだけなのに、自分たちは偉いとか、自分たちが世界(日本)の中心だという勘違いをしている。歴史が浅い上に文化にもオリジナリティがなく、多様性があるというよりは雑多なだけのくせに……。

と、欧州人はアメリカ人を見て思っている。関西人が東京人を見て何を思うかについては、自明に過ぎるし、繰り返しになるので記述しない。

ちなみに、全国、とりわけ東京の皆様におかれては、大阪都構想とか府と市の統一と言われてもなんのことやらといったところだろう。しかし、関西は今、まさに 1990 年代を迎えようとしている欧州なのである。とても今のままではおれない。大阪は統一に向けて揺れ動く以外に手立てがないのである。

繰り返すが、大阪都の誕生は、ドイツ統一に匹敵する。ドイツの統一はフランスとの歴史的融和を経て欧州の統合、EU の成立につながった。つまり、大阪がひとつになるということは関西統一の始まりであり、日本の道州制の始まりなのだ。

ニッポンの変革は常に西から

だからして、大阪都が誕生したらそのインパクトは関西全体に及び、関西州の設立は時間の問題になる。そして全国へと波及する。

当然、大波は東京にも押し寄せる。それが日本の真のグローバル化の幕開けだ。日本のグローバル化はやっぱり西から始まるのである。そしてアメリカ、いや東京による全国支配体制は崩壊するだろう。いうまでもなくこれは明治維新以来のこの国のカタチの大改造を意味する。東京の皆様はその日を戦々恐々として待っていてほしい。

ところで、東ドイツ(大阪市)の領内には、財政難のため噴水が止まったコンクリートの池の残骸や、壊れた公園のベンチなど、社会主義的遺産が数多く残されている。ノスタルジックな観光をしたければ今のうちだ。また、関西州の州都は大阪か京都かもめた結果、きっと大津になる。EU本部もブリュッセルにある。今から大津の土地を買っておくとよいだろう。

それにしても大阪がついに統一され、強国になったとき、あのお高くとまった神戸がどう振る舞うか、今から楽しみでならない。ちなみにチャーチルは、当初の United States of Europe 構想に、自国イギリスを含めていなかったが、英国は 1973 年に欧州諸共同体(欧州連合の前身)に加盟した。

(注) 欧州連合成立の立役者としては、チャーチルよりもフランスの実業家ジャン・モネが挙げられることが多い。1950 年、フランス政府はモネ起草の「シューマン・プラン」を発表し、独仏の石炭・鉄鋼産業を超国家機関の管理下に置き、これに他国も参加する ECSC(欧州石炭鉄鋼共同体)の設立を提案。ECSC は 1952 年に設立され、58 年には領域を拡げて EEC(欧州経済共同体)、EURATOM(欧州原子力共同体)が創設された。その後 67 年には欧州共同体(EC)に発展し、さらに 93 年に欧州連合(EU)となった。

(構成: 片瀬京子)

[このコラムについて](#)

上山信一の“あまのじゃく”改革談義

この連載では、“改革屋”の元マッキンゼー共同経営者である上山信一・慶応義塾大学総合政策学部教授が、世間の本音を代弁し、世の中に転がっているおかしなことを次々と斬っていきます。

日経BP社